

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年6月11日
タイトル	みんなの給食米を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年6月4日（木）福山市立東村小学校全児童46名と福山市立東村保育所児童17名が、学校給食食材納入グループ「若草会」の学校農園約20aのほ場で、給食で食べるお米の田植えをしました。

晴天のなか、保育所と小学校から歩いてほ場まで子ども達がやってきました。

水土里ネット福山の組合員の<sup>かいのあきのり</sup>廻野明倫さんから挨拶があり、つぎに若草会会長の<sup>すぎはらなおみち</sup>杉原直道さんから今年で4年目となり、学校農園の近くにはホタルも飛び交うようになって豊かな自然環境となったことやそれは、子ども達の頑張りの賜物であるとお話しされました。



晴天のなか、子ども達が歩いてきます！

土と水、人間と生物の相乗効果で稲ができる！

いよいよ田植えです、小学生全員が横一列に並び田んぼへ入ります。最初は「つめたい！ぬるぬるする！」と歓声をあげていましたが、高学年の子ども達は慣れたもので、苗を3本ずつ持つとすぐ植えはじめ、上手に植えていました。1年生の子は、若草会の早乙女さん達に教えてもらって、始めは難しそうでしたが、すぐ慣れて上手に植えていました。半分ほど植えたら低学年の子は保育所の年長の子と交代して、年長の子が植えるのを後ろから教えてあげていました。



一年ぶりの土の感触！



一年生が年長の子に教えてあげています！

あっという間に植えて畦から離れていって苗がなくなってしまう、校長先生に「苗をお願いしまーす！」と子ども達から声をかけられます。校長先生が苗の束を豪快に投げてやり、子ども達も次々にキャッチして歓声があがっていました。

高学年の子を見ていると、自分達の足跡であいた穴を誰にも言われてないのに足で均して、その恰好が様になっていて感心しました。



校長先生大忙し！ポーンと投げ入れます！



みごとな足さばき！感動です！

田んぼの4分の1を手で植えて、子ども達の田植えが終わると、廻野さんが田植え機で颯爽と田植えをして見せてくださいました。子どもの中から1人、試乗させてもらいました。



ビューンと颯爽に植えていきます！

「お〜！」と歓声があがっていました。

みんなの中から一人だけ乗せてもらいました。

「乗ってみて、近くで見ると肥料を自動でまいたりしてすごくハイテクでした！」と感想を言ってくれました。

一生懸命田植えして、みんな泥だらけになりました。  
農業用水路や用意していた水で足を洗います。  
みんな気持ちよさそうです。



水土里ネット福山から、今回の田植え体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に農業用水路の防災について話し、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

防災意識が高まったかな？



最後に大村校長先生より、若草会や地域の方に感謝の言葉と子ども達と共に稲の成長を見守っていくことなどをお話しされ、田植え体験は終了しました。

若草会の皆さんは、早朝よりおむすびや柏餅を用意してくださったり、一緒に田んぼへ入って田植えを手伝っておられ、とても生き生きとおられました。

用意されたおむすびや柏餅は、みなさんと話をしながらおいしくいただきました。

お話のなかで、若草会会長の杉原さんから、子ども達が手で植えた稲は、機械で植えた稲より最後の最後は強くよく育つということを教えていただいた事が印象に残りました。



若草会のみなさんで記念撮影です！

おむすびが入ったパッケージには子ども達からメッセージが添えてありました。



— 子ども達からのメッセージ —

◇ ほくたちの学校のじまんは、なんといっても「給食」。とってもおいしいんだ！今日植えた稲が10月には実る。「大きく育てよ」と1本1本声をかけて植えました。

◇ 初めて田植えをしたときのあの土の感触。ぬるっとしてすいこまれそうだった。こんなぬかるみでいねがそだつのか！？今も不思議。そこでとれたおいしいお米を食べてわたしも大きくなりました。

◇ わたし達の小学校の給食は、この学校農園でとれたおいしいお米がつかわれています。児童46人という小さな学校ですが、先日も運動会を大成功させました！リレーで前の人を追いぬかせるのも、お米のおかげだと感謝しています！

◇ 雨の日も風の日も、じりじり焼けつくような日も田の管理をしてくださってありがとうございます。おいしいお米を食べて、ほくたちも勉強や運動をがんばります。

ここ東村町は、平成3年から平成5年にかけて水土里ネット福山が、ほ場整備事業を施行した地域になります。ほ場整備を契機に地元農家を中心とした若草会と小学校・保育所が連携した給食米の取り組みは、地産地消の実践例として市内の基盤整備実施地区のモデルケースとなっています。

今後も水土里ネット福山として、このような取り組みに協力していきたいと思えます。